

平成二十二年度 秋季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「秋」

期間 平成二十二年八月一日～平成二十二年十月末

投句数 一、二一六句

特選三句

天

江ノ電の音のみ聞こゆ良夜かな

神奈川県鎌倉市 伊藤俊昭

地

勤行の声澄みわたる今朝の秋

神奈川県鎌倉市 兵藤寿恵

人

朝紅葉読経流れる建長寺

神奈川県横浜市戸塚区 芝田和男

入選句

一般の部

友が魂呼び寄せるかに芒波

神奈川県横浜市栄区

天野ひろし

千枚田実りの秋に輝けり

千葉県千葉市花見川区

新井明彦

秋立つやぼんぼり灯る八幡宮

神奈川県横浜市港南区

石川正明

鎌倉によき風のきて施我鬼寺

神奈川県鎌倉市

磯崎洋子

篝火に観世の舞や古都の秋

東京都杉並区

稲垣克巳

露座佛と並びて吹かる秋の風

東京都八王子市

小倉寿子

抜け道の果ては海なり木の実落つ

神奈川県横浜市泉区

糸谷京子

夕風は秋のさきやき段葛

神奈川県鎌倉市

斉藤マサ子

水音の絶えぬ境内曼珠沙華

埼玉県川口市

櫻井義男

鎌倉の奥まで秋を歩き行く

神奈川県逗子市

佐藤信子

鎌倉に色づく紫式部の実

東京都町田市

竹内弘

踏石の色を深めて萩の雨

神奈川県横浜市泉区

出射恵美子

朱印帖預けて巡る寺の秋

滋賀県彦根市

中井戸かず枝

錦秋の夕陽に染まる古都の海

神奈川県三浦郡葉山町

中川俊介

畦道の狭くなりたる稲の秋

千葉県船橋市

前原慶輔

丸窓に紅葉且つ散る明月院

東京都世田谷区

松本由美子

江ノ電の小さな駅や赤とんぼ

神奈川県横浜市青葉区

山下省三

堂塔を影絵にいでし居待月

東京都大田区

山田隆紀

寿福寺の秋日こぼれる石畳

神奈川県鎌倉市

米山信男

秋日濃しやぐらに石の布袋尊

東京都板橋区

若林喜美夫

(順不同)

入選句

子どもの部

晴天の空を泳ぐは鰯雲

神奈川県鎌倉市

平石千智

秋風に乙女の祈り流れくる

神奈川県鎌倉市

児玉淳也

あきばれのかまくらのまちすてきだな

埼玉県越谷市

安達理乃

ことにきてはじめてみたよひがんばな

埼玉県越谷市

佐藤真穂

だいぶつは台風きてもこわれない

東京都江戸川区

遠藤正隆

月光が静かに部屋にしみわたる

東京都世田谷区

柳内富有

段かずら長いトンネル秋の道

東京都世田谷区

青木優佳

鎌倉についたら空にいわし雲

東京都世田谷区

松村凜香

あかとんぼもうあきだよとしらせてる

栃木県下野市

小野美紗季

朝起きてまどを開けたら秋の空

山梨県南都留郡

岡部明美花

(順不同)